

いつでも、どこでも、誰にでも。

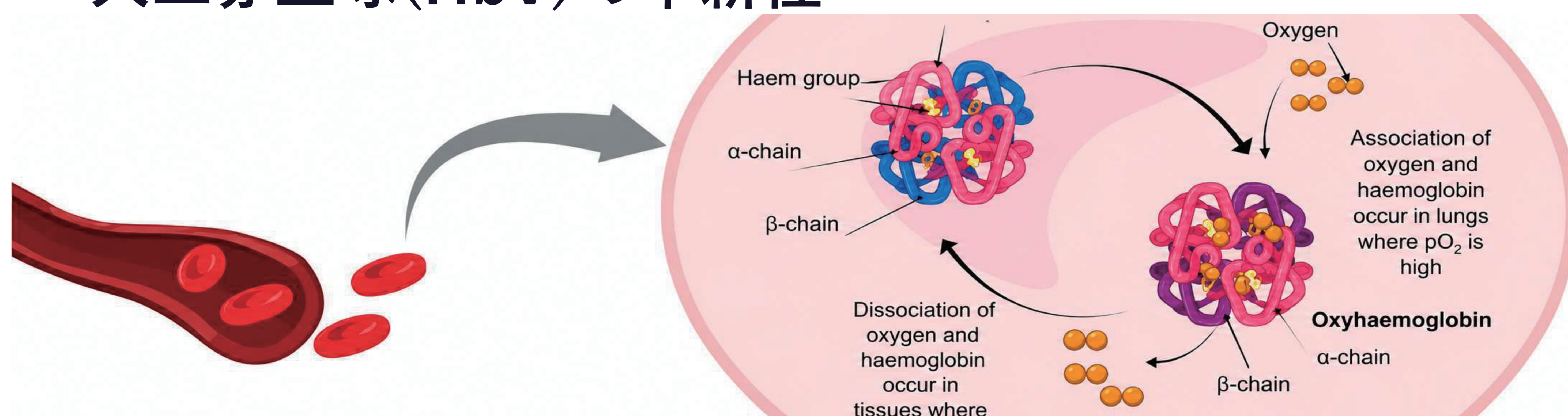
救命の未来を変える 「人工赤血球」

備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤(HbV)の実用化研究

⚠ 迫りくる血液供給の危機

2030年、日本で65万人分の血液が不足。
少子高齢化による献血者の減少、さらに離島・過疎地での救急医療や、大規模災害時における「輸血の空白」をどう埋めるか。

📖 人工赤血球(HbV)の革新性



ヘモグロビン溶液をカプセル化した微小粒子



血液型不問

交差試験不要で、誰にでも即座に投与可能



高い安全性

ウイルス等の感染源を完全に排除



2年間の保存

室温で長期間の備蓄。災害用備蓄品に最適



現場での救命

救急車やドクターヘリ内での即時投与を実現

🏥 実用化への歩み：医師主導治験

第1b相 安全性試験 実施中

奈良県立医科大学：GMP製造法を確立し、最大400mL投与の忍容性を確認。Phase 1a (First-in-Human)では重篤な副作用なしを確認済み。次世代の救急医療インフラの確立を目指す。



Nara Medical University

奈良県立医科大学 産学官連携推進センター sangaku@naramed-u.ac.jp